

South Wind

サウスウィンド Mar.2020 Vol.96

特集

第14回 世界とトモダチみやざき国際フェスタ



Contents/ 目次

第14回世界とトモダチみやざき国際フェスタ…2
第14回外国人住民による日本語スピーチコンテスト…4
Hear! Here Voices
～ルン トゥ ヒュエンさん(ベトナム出身)～……………5
JICA ぼーべんにゃん……………6
宮崎県国際交流協会ニュース……………7
INFORMATION ……………8

「世界とトモダチみやざき国際フェスタ」で行われた「ステージパフォーマンス」の一場面です。宮崎で活動しているカポエイラグループ マリリア・ブラジル宮崎のみなさんです。

★フェスタの様子は、p.2,3で詳しく紹介しています。



公益財団法人 宮崎県国際交流協会
<http://www.mif.or.jp/>



世界とトモダチ みやざき国際フェスタを 開催しました！



11月23日（土）、宮崎に住む日本人と外国人との充実した交流をめざして、宮崎市若草通で「第14回世界とトモダチみやざき国際フェスタ」を開催しました。ステージパフォーマンス、世界の国ブース、協力団体ブース、JICAブース、日本伝統文化体験等で多くの方々の協力をいただきながら、たくさんの来場者に楽しい時間を過ごしていただきました。ご参加いただいたみなさん、ありがとうございました。

Stage Performance

悠久の響き



二胡の演奏

ダイナミック!



カポエイラ

家族で仲睦まじく



ボサノバ

本場の歌声



ギターの演奏

癒される音色



インドネシア民族音楽

皆さんの心温まる音楽が、アーケードに広がり、ビッグなステージになりました。



International Booth



ジェンガを楽しむイギリスブース



韓服でアンニョンハセヨ！韓国ブース



いろいろクイズ シンガポールブース



アオサイが素敵なベトナムブース



色鮮やかなタイブース



笑顔いっぱいフィリピンブース



バンララデッシュブースですごろくゲーム



自国ならではの文化や言葉の紹介、ゲームを交えてのクイズ、韓服の試着など、各ブースの担当者の皆さんは、趣向を変えて来場者を楽しませてくれました。

Try on the Samurai Armor and Kimono



勇壮な武者ぶり



大和なでしこ



JICA 国際協カブース



SDGs^(*)について、
自分たちができることを
考えました。

県内国際交流団体・協力団体ブース



宮崎市国際交流協会



清武町国際交流協会

いろいろな体験や
交流を楽しんでいた
できました。



ウイングジャパン留学センター



宮崎情報ビジネス医療専門学校



ヒッポファミリークラブ宮崎



宮崎ブラジル親善協会

※「SDGs」については6ページを参照ください。

14th Annual ART Festival

2019年11月20日～11月30日

14の国や地域の29名の外国にルーツのある方がさまざまな視点から「宮崎」をアートで表現し、書道17点、写真12点、手工芸・その他の作品等5点を出品をしていただきました。36点の優秀な作品からは新たな「宮崎」を感じることができました。鑑賞いただいたみなさんの投票で最優秀賞が選ばれました。

書道の部



「九州の真珠、観光名所」
The Pearl of Kyusyu,
A Tourist attraction
ユウオウさん
(中国)

写真の部



「宮崎での生活」
Life in Miyazaki
フィンクオンダットさん
(ベトナム)

絵画の部



「日没」
Sunset
アミニアサダさん
(アフガニスタン)

手工芸・その他の部



「宮崎犬と綾城」
Miyazaki-dog and
Aya-Castle
村上仁さん
(日本)

11月30日(土)に、「第14回外国人住民による日本語スピーチコンテスト」を開催しました。今回は、一般の部に6名、留学生の部に8名、計14名(9か国)の宮崎在住の外国人の方が出場し、「私と日本」をテーマに日本に興味を持った理由や宮崎の生活で感じたことをそれぞれの視点から発表してくださいました。

どの発表者の方々も内容、日本語力の高さ、表現力が素晴らしく、聴衆に感動を与えてくれました。審査の結果は以下の通りでした。各部門の最優秀賞、優秀賞そして来場者の投票で決まるオーディエンス賞を受賞された方々、おめでとうございます！




一般
リンジー シャイナーさん
(アメリカ)
「私の答え」



一般
エマ トンプソンさん
(アメリカ)
「私の新年の抱負」



最優秀賞
一般
ガニエフ コミルジョンさん
(ウズベキスタン)
「私の記憶」



優秀賞
一般
マッコール サムさん
(アメリカ)
「ストーリーを探して」



一般
ダン テイ オアインさん
(ベトナム)
「私と日本」



一般
ファニー デジャーデンさん
(カナダ)
「わたしの心のふるさと、日本」



留学生
趙 冰さん
(中国)
「私が感じた日本の暖かさ」



優秀賞
留学生
アリ エネス トウゼンリさん
(トルコ)
「私と日本」



留学生
楊劉品さん
(中国)
「私と日本の縁」



留学生
ミャット ミン トウさん
(ミャンマー)
「私と和食」



留学生
錢美さん
(中国)
「日本人の挨拶」



留学生
ロート マッチューさん
(オランダ)
「わたしと日本で経験したこと」



最優秀賞
オーディエンス賞
留学生
パウデル クリシュナさん
(ネパール)
「神様からの贈り物」



留学生
張瑞雪さん
(中国)
「わたしと日本-日本で悟ったこと」



一般の部最優秀賞
表彰の様子
ガニエフさん

留学生の部最優秀賞

神様からの贈り物 パウデル クリシュナ

中国やインドなど豊かな国には生まれた小さな国、ネパールからやって来たパウデル クリシュナと申します。私が小学校のころの話です。学校で初めて日本のことを聞きました。それは日本が第二次世界大戦で負けてたくさんの人々を失ったにも関わらず、まるでビデオの早送りを見ているようにぶっこうし経済大国になったという話でした。その話をきっかけに日本に興味を持ちました。そのころから日本に行きたいと思い、日本と日本文化に関するたくさんの本を読み、富士山、お花見、しんかんせん、まだ知らない日本のことを毎日ゆめに見ていました。2年前、そのゆめが実現し留学生として沖縄県那覇空港に到着しました。外の様子を見て自分は地球のてんごくにいるようだと思い、100年後のネパールはこんなふうになっているだろうか、想像しました。ネパールのいなかで育ち、9歳の時初めてバスに乗った私にとっては、モノレールなどの日本の技術、きれいな道路や青い海、混んでいるのにしずかな道、すべてがすばらしく見えました。

日本で生活するうちに責任感が強く、思いやりのある日本人が大好きになり、楽しい毎日を送っていました。日本語学校で授業を受けていたある日、先生から日本の介護保険制度や介護施設などのことを聞きました。お年寄りのことを一番に考えた日本の介護システムは世界でも認められていることを聞き、おどろきました。それは自分がお年寄りのことを考えない、冷たい国から来たからだと思えます。ネパールの老人福祉はまだいろいろな問題があります。例えば、一人暮らしの健康なおとしよりの一か月の生活費は日本のお金で2万円から3万円くらいですが、国からもらえる年金は3千円程度です。また、ネパールでは、貧しい家庭が多く、悲しいことですが、親を大切にしない子供たちがお年寄りを遠い山や町、きふによって建てられた宗教施設などに連れて行くこともあります。

日本でも昔同じようなことがあったそうですが、経済が発展し、介護システムができてからは、そういうことはなくなったと聞きました。その他にも、日本ではお年寄りが増え介護をする人が足りないことを知りました。法律が変わり外国人

も介護の仕事ができる、日本の役に立てる、ということを知りうれしくなりました。それで、日本だけではなく、自分の国のためにも介護福祉について学ぼうと決めました。今宮崎の専門学校で介護の日本語を学びながら介護施設でアルバイトをしています。施設に入ったばかりのころ、介護の仕事は少し難しいと思いました。ですが日本人の職員の方がやさしく教えてくださったおかげで少しずつできるようになりました。いま施設で利用者様の食事や入浴や排泄などの介助をしたり一緒にレクリエーションをしたりしています。おじいさん、おばあさんたちから昔のことや、趣味を聞いたりして、仕事もとても楽しく、介護士になりたいという気持ちが強くなりました。施設にいらっしゃる103歳のおじいさんがカラオケで元気に楽しそうに歌を歌っている姿を見ると、自分の国の恵まれないお年寄りのことを思い出して、たまらない気持ちになります。

私は日本の介護システムをネパールに取り入れることで、お年寄りにとって希望のない国を希望にあふれた国に変えることができると 생각합니다。そして、それをするのは、私たち若いネパール人の責任だと思います。私は日本で介護福祉士の資格を取り、介護のプロになりたいです。介護施設で働いて、家族の一員となり日本でたくさん経験を積みたいです。お年寄りの気持ちを一番に考えた介護をしたいです。

私にとって、日本という国は神様からの贈り物です。それは子供のころからの夢を実現させてくれた、そして、これからの夢を与えてくれたからです。私はネパール人はもちろん、ほかの国の人たちにもぜひ日本の介護を学んでほしいです。世界一すばらしい介護の知識と技術を身につければ、日本で家族のように働くこともできるだけでなく、自分の国のお年寄りにききと明るい生活を与えることができるでしょう。



Hear! Here Voices

Luong Thou Huyen(ルン・トゥ・ヒュエン)さん

【プロフィール】

ベトナム・ハノイ出身で宮崎市在住の主婦。

日本生まれのベトナム人のご主人と子ども3人の5人家族。現在、1男2女の子育て、ご主人の仕事のお手伝い、宮崎県国際交流協会日本語の勉強やカウンターボランティアなど忙しい毎日を送っています。



宮崎に来たきっかけは？

貿易の仕事をしている主人の転勤で宮崎に来ました。ベトナムに仕事で来ていた主人と知り合い、2005年に現地で結婚しました。それからしばらくして日本に来ました。最初の2か月は横浜に住んで2011年の3月に宮崎に来ました。もうすぐ9年です、早いですね。



家での会話は何語ですか？

主人と私はベトナム語で話しますが、子どもたちはベトナム語よりも日本語の方が上手なので日本語が多いですね。子どもから日本語を教えてもらうことも多いです。ベトナム語もきちんと話せるようにはなってほしいですが、生活が日本語中心なので、なかなか難しいです。

「カウンターボランティア」もされていますね？

ニュージーランド人の友だちから誘われて、わたしにもできるかもしれないと思ってはじめました。図書の出し入れの受付や、※1 使用済み切手の整理、プラザニュースの発送のお手伝いなど、もう一人の方と二人でします。なかなか外に出て人と交流する機会がないので良かったです。一緒にボランティアをしている方も子どもさんのいる主婦の方なので、学校のことや買い物、レシビなど共通の話ができるのもいいです。



「日本語れんしゅう会」に参加したきっかけは？

日本語の会話は少しずつできるようになりましたが、わたしの日本語は正しくない時があります。日本語は「て・に・を・は」など難しいです。そして読み書きはあまりできません。これまでは学校や保育園からのおたよりは主人に訳してもらっていましたが、これから少しでも読めるように、そして正しい会話ができるようになりたくて日本語ボランティアさんと一緒に勉強したいと思いました。「日本語れんしゅう会」に参加するようになって同じベトナム出身の友だちもできました。私の方が宮崎での生活が長いので、いろいろとアドバイスできるのがうれしいです。しかし生活の中で分からないこともあるので、相談できる

※2「外国人相談センター」
ができたのがいいですね。難しい言葉は翻訳機を使って会話ができます。



宮崎での生活はどうか？

長女(小6)はベトナム生まれ、長男(小1)、次女(保育園の年長)は宮崎で生まれました。主人は日本生まれのベトナム人、私はベトナム人、子どもたちは宮崎育ちの宮崎人ですね。宮崎は海も近くて暖かくてベトナムに似ているところもあるので住みやすいです。



将来はどのように考えていますか？

今は主人の仕事や子育てなど宮崎での生活はとても充実していて楽しいです。でも将来のことはまだ分かりません。家族5人で幸せに暮らしていきたいです。



※1 宮崎県国際交流協会では使用済み切手を集めて「日本キリスト教海外医療協力会」へ寄付しています。

※2 10月26日に宮崎県国際プラザのとなりに「みやざき外国人サポートセンター」がオープンしました。宮崎で生活する外国人の疑問や困りごとに相談員が対応します。

インタビューを終えて

いつもニコニコ、誰にでも話しかけてくれるルンさんの周りにはいつも賑やかです。宮崎で生活する外国人の先輩としてこれからも活躍の場が広がることを期待したいと思います。



ぼーぺんにゃん Vol.6



JICAデスク宮崎 国際協力推進員
田代 芽衣
 Tashiro Mei
 (元青年海外協力隊 看護師としてラオスで活動)

☎: 0985-32-8457
 ✉: jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp
 URL: <https://www.jica.go.jp/Kyushu/>



ບໍ່ເປັນນຳຍັງ

「ぼーぺんにゃん」は、^{ジイカ}JICA や国際協力について様々なことを紹介していくコーナーです。
 (「ぼーペンニャン」は、ラオス語で「大丈夫」「気にしない」「なんとかなるさ」という意味)



「ぼーペンニャン vol.6 ~これからの国際社会のなかに生きる~」

皆さん、こんにちは！ JICA デスク宮崎・国際協力推進員の田代です。
 突然ですが、みなさんは普段の生活のなかで、外国の方と関わったり、交流する機会ってありますか？ここ最近では、宮崎市内のコンビニエンスストアで働く外国人の姿を目にすることが多くなり、外国人を見かけない日は無いほどに変化してきました。
 なかには「私は外国や異文化に興味はないし、この先外国人と関わることなんてないから自分には関係ないわ。」そんな風に考えている方もいらっしゃるかもしれません。
 あまり強くは認識されていないのですが、私たちの生活は多くの海外のモノに囲まれて成り立っています。私たちが日々口にしている食料をはじめ、生活に必要なエネルギー、現代の生活に欠かせないスマートフォンやパソコンなど。幅広い範囲で世界と私たちの生活は相互依存・相互援助によって成り立っている関係にあります。世界と私たちの繋がりを数え始めればきりがありません。



2019年4月に改正入管法が施行され、今後はますます外国人との関わりや繋がりが広がる社会になっていきます。そんな中で、私たちが今できることを改めて考え直す時期が迫ってきているのではないのでしょうか。

「国際協力」という言葉を聞くと、どうしても海外に行き初めてできること。というイメージを抱きがちですが、決してそうではないと思います。日本に居ても、地域に居てもできることは沢山あると思います。ひとりひとりが身近にできることを探し、それを実際に行動に移し実行していく。それこそが2030年に達成すべき「SDGs」の課題目標を達成することにも繋がっていくのだと考えます。

(「SDGs」とは2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた国際社会共通の目標のことです。)



私は出前講座を通して県内の学生さんたちに国際協力や多文化共生についてお話する機会が多くあるのですが、これからも講座やJICAイベントを通して世界に目を向けるきっかけづくりを行い、より多くのことを伝えていけたらと思っています。

そして、これからの多文化共生社会の中を生きていくためには、よりよい世界を目指し、身近に暮らす外国人と仲良くしながらお互いの文化を理解し、認め合いながら共生していくことが大切になってくるのではないのでしょうか。

「自分にできる国際協力って何だろう？」そう思い始めることであなたの国際協力への第一歩は始まっているかもしれません。皆さんも一緒に考えてみませんか？

気になった方はカーリーノ地下1階国際交流プラザにてお待ちしております。いつでもお気軽にお越しください。JICAに関すること、国際協力に関することを、一緒にお話ししましょう♪

「ある国に宮崎人がおったげな…」miten
 各国で暮らした経験のある宮崎人が旅行では知ることのできないリアルな体験記をつづります。毎月続々更新中！
 バックナンバーも是非ご覧ください。 [WEB http://www.miten.jp/miten/modules/popnupblog/](http://www.miten.jp/miten/modules/popnupblog/)



JICAの事業について質問などございましたら、(公財)宮崎県国際交流協会内 JICA デスク宮崎までご連絡ください。
 TEL.0985-32-8457 E-mail: jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp

宮崎県国際交流協会 ニュース

● 次の講座を開催しました。 ●

国際理解講座 (イタリア、カナダ、ドイツ)

11月3日(日)に、ALL MIYAZAKI スポーツ&ホストタウンフェスタ2019の一環として、イオンモール宮崎で国際理解講座を開催し、ホストタウンであるドイツ、イタリア、カナダの紹介をしました。



イタリアブースではベッレリートさんと高橋千恵美さんご夫婦を講師にお招きし、日本語とイタリア語を交えながら、イタリアの紹介と日本人として思った事など、ユーモアたっぷりのお話をうかがいました。



カナダブースではイヌイット衣装展示・体験コーナーを設けました。アザラシやカリブーの毛皮で作られたイヌイットの冬服に直接触れたり臭いを嗅いだりと、イヌイットの生活や文化に触れ貴重な体験となりました。



ドイツブースでは、ドイツ菓子店「バイエルン」でドイツの伝統焼き菓子で作ったお菓子の家ヘクセンハウスを手がける高尾次義さんを講師にお招きしました。また、宮崎在住で「ビヨーン」の代表として活躍されているドイツ人陶芸家のビヨーン S クーン さん、都城在住のドイツ人シャネット フックス さん、元協会スタッフの中島由美子さんにも来ていただき、ドイツお菓子の家づくり体験を行いました。ご家族の方やお子さんたちは出来上がった作品に大満足でした。



外国人住民支援講座



「事例からみる多文化共生社会におけるこころの支援」

9月4日(水)、四谷ゆいクリニック院長の阿部裕先生を講師に迎え、宮崎市民プラザにて、外国人が抱える問題、多文化クリニックの取り組み、心の問題を抱えた外国人への対応などのお話をいただきました。協会ボランティア他、計16名の方に参加いただき、貴重な経験を通してのお話に感謝の声が聞かれました。



外国人住民のための防災セミナー

10月26日(土)に、宮崎市消防局宮崎東諸県広域防災センターにて、外国人住民のための防災セミナーを開催しました。地震や台風などの災害とその対策について話を聞き、その後グループごとに「防災アプリ」、「防災グッズ」、「煙中体験」、「起震車体験」のブース巡りをしました。今回はベトナムやミャンマー、バングラデシュなど合計19か国、102名の外国人に参加していただき、初めての体験で熱心に質問する様子もみられ、「災害が起こった時に自分自身を守るのに役立つたくさんの情報を学んだ」といった感想が聞かれました。



日本語学習支援者養成講座

日本語学習支援者養成講座(宮崎市)、日本語学習支援者養成基礎講座(延岡市)、日本語学習支援者向け講演会



11月から1月にかけて宮崎市で全8回、12月に延岡市で全4回、外国人住民の日本語学習を支援したい方向けの講座を開催しました。講師を務めてくださったのは宮崎大学の4名の先生方で、「日本語教育」や「異文化間コミュニケーション」、「日本語の構造」などについて学びました。また、11月に佐賀県多文化コーディネーターの北御門繪絵さんを講師に迎え、「地域日本語教室の役割」についての講演会を開催しました。講座と講演会を通し、受講者の方には外国人住民との交流を通じた日本語教育の在り方について学んでいたのではないかと思います。



日本語講座初級2

初級1を終えられた方々からのご要望がない、後期から初級2が始まりました。ひらがな・カタカナをマスターされたあと、やさしい漢字も読めるようになられました。会話はできるけど、文法がすこし・・・という方々に好評でした。以前に少し日本語を勉強されている方も受講され、懐かしい思いを抱きながら学習されていたようです。



☆上記以外の開催講座☆

- ・日本語れんしゅう会 (通年開催) ・国際ふれあいチャット英語・韓国語・中国語 ・日本語講座・初級(宮崎大学、MSG)
- ・外国人のための防災講座/外国人災害サポートボランティア養成講座: 令和2年2月29日(土)

ちよっぴひひき 「思い出はきらめく宝石となり」

みやざき外国人サポートセンター 相談員
久保 富貴子

半世紀を生きて、心の小箱には、見知らぬ国で過ごした思い出が今もなお輝いている。

ホームステイ先のお爺ちゃんは77歳、土曜日にはモーニングスターキ、大きなゴミバケツは私に触れさせずに自分で運び、英語の発音を言い直してくれた。私の名前の「Fu」が言いにくかったのか「Keeko」（キーコ）と呼んだ。お婆ちゃんは92歳、車椅子生活で毎週美容院へ通うお洒落な方だった。亡くなった時、サンフランシスコ湾に船からの散骨は悲しくも驚きの体験だった。大学で出会った数々の留学生、交わす英語はそれぞれ母国語を感じさせた。ラマダン中の友人の苦しそうな姿、台湾人の友達のお米で作った甘いお粥、ベトナム寺院に住む友達を尋ねたときに仏陀を前に繰り返したお辞儀、新年を迎えるカウントダウン、笑顔で言い交した「ハッピーニューイヤー」。政変などのニュースが流れると、あの時の友達はどうしているだろう、と心配になる。授業では、「主張する」話し方を学んだ。グレーゾーンはなし、〇か×、一見ドライな考え方が私には快く感じられた。その後の生き方に少なからず影響している。

サンフランシスコは霧の町、夏には海からの霧が町を覆い、コートが必要なほど寒い。ある日、通りを歩いていてびっくり、ムキムキマッチョマン同士のカップル、そして抱擁にキス、目を見張った。そう、そこはゲイで有名なカストロ通りだった。スーパーは球場のような広さ、自宅近くの海岸に群生するアザラシ、バケツサイズのアイスクリーム、そしてお爺ちゃんのベッドサイドの引き出しには拳銃が！アメリカ生活は楽しくも驚きの毎日、環境に恵まれたおかげが私が鈍感だったからか、差別を感じたことはなかった。



老人は思い出を振り返る、というのが、異文化に向き合ってきたその頃の私に今、励まされている。そして母国を離れ、日本で暮らす方々に心の小箱にすてきな思い出を作ってほしい、そんな気持ちで今日も、相談窓口のカウンターに向かう。



INFORMATION

外国人のための日本語講座(初級1)・(初級2)

県内在住の外国人の方を対象に日本語の初級講座を開催予定

- 【対象】 初めて日本語を学ぶ方
日本語の「よむ」「かく」を学びたい方
- 【日時】 令和2年4月14日(火) スタート 全25回
毎週火曜日・木曜日 10:10～12:00
- 【場所】 カリーノ宮崎 地下1階 会議室
- 【受講料】 無料
- 【教科書代】 2,376円(税込)
- 【問い合わせ】 (公財) 宮崎県国際交流協会



外国人のための日本語れんしゅう会

日本人ボランティアと日本語の学習をします。通年開講しており、いつでも参加することができます。

- 【対象】 宮崎県に住む外国人
- 【日時】 令和2年4月10日(金) スタート
毎週水曜日・金曜日
10:30～11:30
- 【場所】 カリーノ宮崎地下1階 会議室
- 【受講料】 無料
- 【問い合わせ】 (公財) 宮崎県国際交流協会



みやざき外国人サポートセンター

みやざき外国人サポートセンターが10月26日(土)にオープンしました！

サポートセンターは、宮崎で外国人の皆様が安心して生活できるように、日常生活に関わるさまざまな悩みごとに対し、専門機関と連携して適切な情報提供および相談を行います。

翻訳機や三者通話を活用して多言語でのお問い合わせにも対応します。お気軽にお問い合わせください。

対応日：火曜日～土曜日 10:00～19:00

※年末年始・祝日を除く

TEL: 0985-41-5901 FAX: 0985-41-5902 E-mail: support@mif.or.jp Facebook: @mif.mso

Facebookは
こちら



◆ 賛助会員 入会のご案内 ◆

会費：個人会員 年間1口 2,000円 団体会員 年間1口 10,000円

特典：協会発行の定期刊行物「プラザニュース(日・英・中・韓)」、「South Wind」等の提供、協会開催事業への先行案内・優先参加
協会開催各種講座の参加費割引、協会HPから団体会員HPにリンク可能(希望団体のみ)



South Wind

サウスウィンド
Mar.2020 Vol.96



企画・編集 公益財団法人 宮崎県国際交流協会 第96号 2020年3月発行
〒890-0805 宮崎市橋通東4-8-1 カリーノ宮崎地下1階 TEL.0985-32-8457 FAX.0985-32-8512
● URL <http://www.mif.or.jp/> ● E-mail miyainfo@mif.or.jp

情報・意見などをお寄せください。

外国人との交流会など、国際交流に関する催しを計画している団体やサークルの情報をお待ちしています。
また、国際交流に関する話題や体験談、意見なども協会にお寄せください。本誌に対する要望もお待ちしております。

